

探鳥会スタッフ通信

2015年
1月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

◆探鳥会訪問記

（特集・会員を増やすための探鳥会②）・・・1

◆探鳥会保険集計結果

（2014年11月分）・・・12

◆普及室からのお知らせ

・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・14

◆今月の購読者数・・・16

◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・17

◆編集後記・・・17

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会②）

前号から引き続き、関東ブロック所属の支部と一緒に開催している「会員を増やすための探鳥会」の様子をご報告します。今月号で紹介するのは、東京主催の猿江恩賜公園（11/29）、群馬主催の庚申山総合公園（11/30）、栃木主催の中央公園（11/30）、奥多摩支部主催の昭和記念公園（12/6）、千葉県主催の千葉公園（12/6）です。

『バードウォッチングを始めよう！猿江恩賜公園』（東京）

【日 時】2014年11月29日（土）10時～12時

【天 候】雨

【場 所】猿江恩賜公園（東京都江東区）

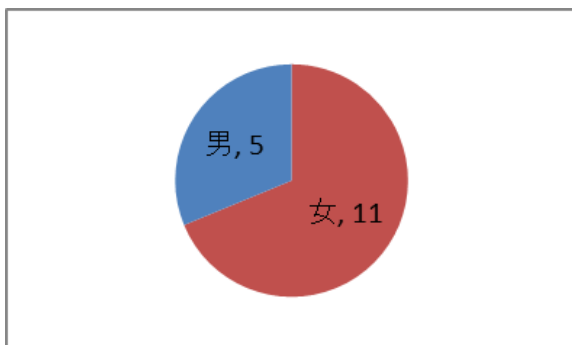
【参加者】16名 【リーダー】6名 【お試し入会者】3名（非会員参加者の3割）

【広 報】

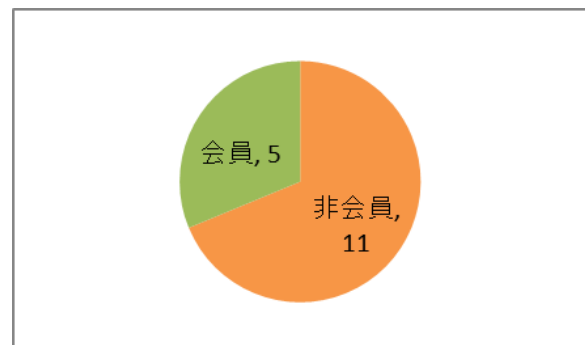
＜インターネット＞財団HP、財団Facebook、普及教育グループブログ／Twitter

＜メール＞一斉メール送信（10/17、20に、関東、山梨、静岡在住の8,663名に送信）

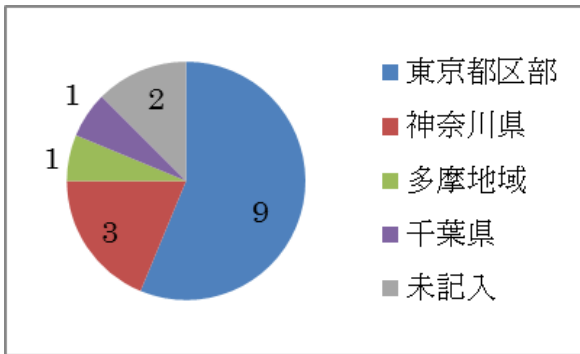
・性別



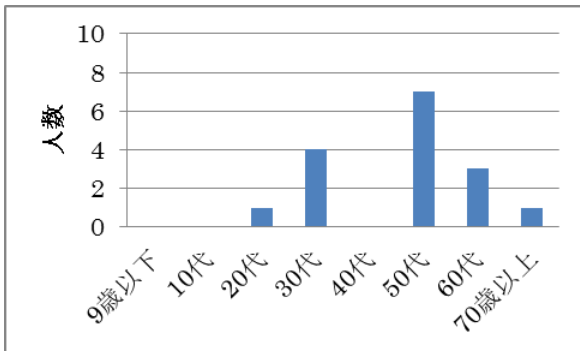
・会員／非会員



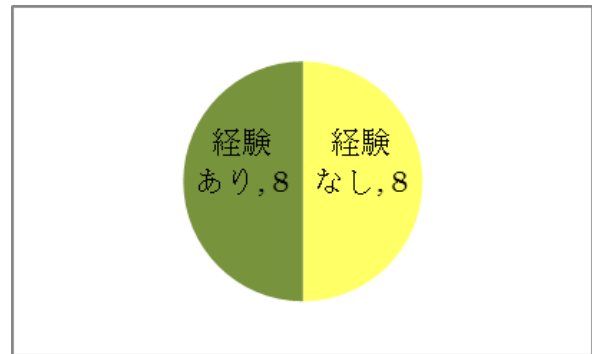
・お住まい



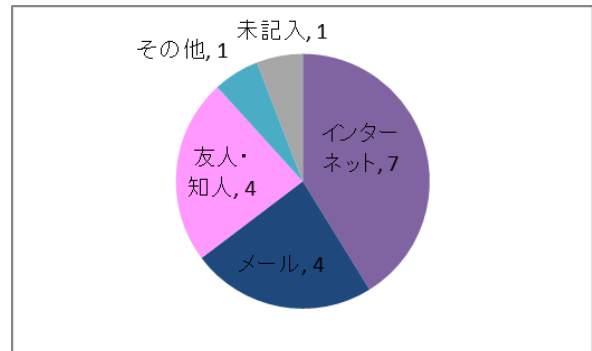
・年齢構成



・バードウォッチング経験



・何で知ったか



■探鳥会概要

猿江恩賜公園は、都営新宿線住吉駅から徒歩 2 分と好立地の東京都江東区にある公園です。公会堂や野球場などの公共施設も有しており、多くの方が訪れています。庭園部には池や小川などがあり、多種の樹木が植樹されています。周辺住民の憩いの場所ともなっています。

当日は、50 代を中心に、非会員 11 名を含む 16 名の参加がありました。探鳥会は、メインリーダーが先導し、残りのリーダーが参加者への対応をする形で進みました。公園入口から池や小川のある散歩コースを歩き、横十間川沿いを移動して観察をしました。

■探鳥会の様子

あいにくの雨、開始 10 分前になっても参加者は現れず。参加者がいないのではと心配になりましたが、一人二人と現れ、16 名になりました。ほとんどの方が双眼鏡をお持ちで、「双眼鏡を買ったけど使わないままで、バードウォッチングの方法を知りたい。」と参加された方もいました。

最初の観察ポイントは、鳥がつついた形跡のある柿の実。姿がなくてもそこに野鳥がいることを感じることができました。ヒヨドリ、

ムクドリ、カワラヒワが次々と現れる中、望遠鏡を覗いたことのない参加者は、大きくくっきりと見える世界に感動し、雰囲気も盛り上がりました。

次は、オナガガモが至近距離で見られる池。カモの仲間は肉眼でも観察しやすく、初めての方にバードウォッチングを体験していただく野鳥として、好適です。



▲図鑑を使って説明するリーダー

各リーダーは積極的に参加者に話しかけており、リーダーを補助するために参加した会員の方も含めると、ほぼマンツーマンでの対応でした。

小川沿いの真っ赤に色づいたハゼノキには、シロハラや実をつつくメジロ。そして、低木にとまり魚をねらうカワセミやヨシ原にひそむカルガモ、落葉の上を歩くコサギと、次から次へと現れる野鳥。次第に、双眼鏡でとらえられないもどかしさをリーダーに相談している参加者もありました。リーダーは、「まずは肉眼で、そして双眼鏡で。」とやさしくアドバイスされていました。



▲ハゼノキのシロハラとメジロを観察

雨はひどくなり、予定していたコースを省略してまとめとなりました。まとめは、雨をしのげる東屋で行なわれました。最後に、「お試し入会」の説明があり、終了となりました。お試し入会者は3名でした。

■参加者の声

50代女性：千葉から参加しました。10年ほど前に、双眼鏡を購入し、少し重いので新規購入を考えていました。本日は、皆さんの双眼鏡を体験させていただき、大変参考になりました。野鳥の素晴らしさを多くの方と共有できて良かったです。

30代女性：日本野鳥の会を知ったきっかけはバードウォッチング長靴です。バードウォッチングのための長靴を購入したので、ぜひ体験したいと参加しました。本日は雨なので長靴を履いてきました。こんなに野鳥がきれいだとは思いませんでした。また参加したいと思いました。

■まとめ

「初めて参加される方でも親しめる雰囲気を作る」、そこに重点が置かれていました。リーダーおひとりおひとりの人柄と、リーダー間の信頼関係が良く表れていました。

今回、雨と寒さで、コースや時間の変更がありました。リーダー間で声をかけあい、臨機応変な対応をされていました。探鳥会で、参加者の満足度をあげるには、リーダー間の信頼が重要な要素だとしみじみ感じた探鳥会でした。

（普及室／林山雅子）

『初心者のためのバードウォッチング イン 庚申山』（群馬）

【日 時】2014 年 11 月 30 日（日）9 時 30 分～11 時 30 分

【天 候】晴れ

【場 所】庚申山総合公園（群馬県藤岡市）

【参加者】15 名 【リーダー】8 名 【お試し入会者】10 名（非会員参加者の 7 割）

【広 報】

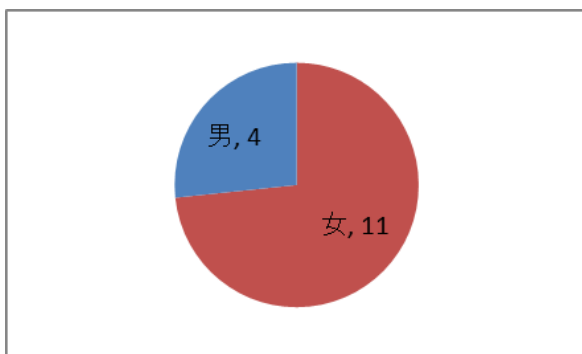
＜新聞＞3 社（朝日新聞、11/3 上毛新聞、11/28 読売新聞）

＜テレビ・ラジオ＞2 社（11/28NHK前橋放送局、11/29FM 群馬）

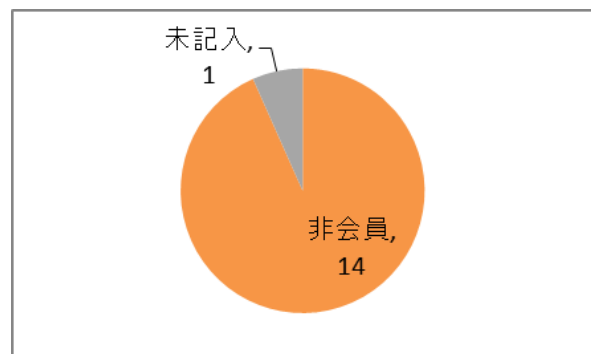
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter

＜メール＞一斉メール送信（10/17、20 に、関東、山梨、静岡在住の 8,663 名に送信）

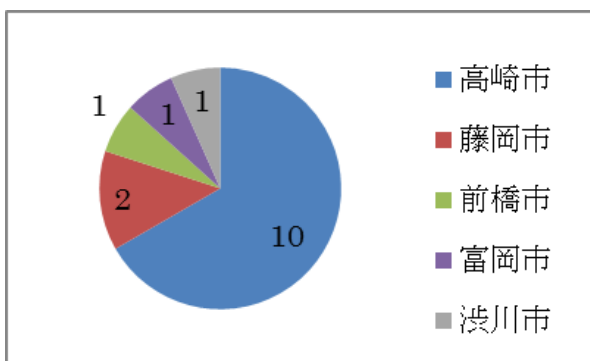
・性別



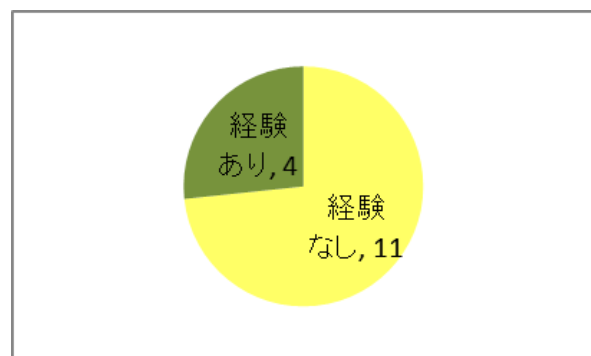
・会員／非会員



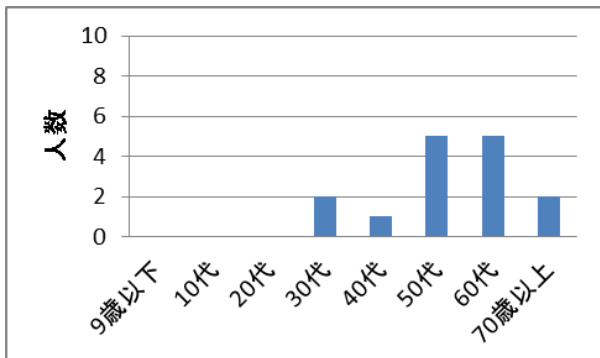
・お住まい



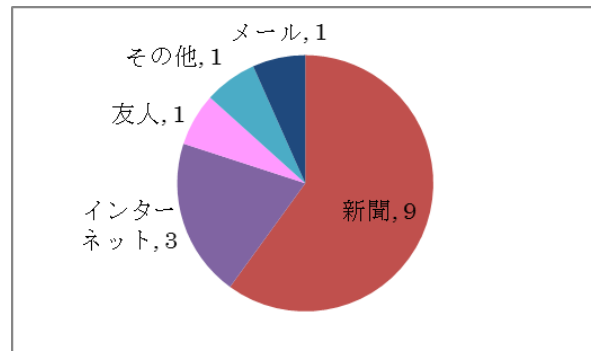
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

群馬県南西の藤岡市にある庚申山総合公園は、標高 189m の庚申山一帯に広がる自然公園です。気軽に自然を楽しめる散策路のほか、運動場などの施設もあり、多くの市民が利用しています。今回は散策路を歩くコース。途中には池があり、林の鳥と水辺の鳥両方を観察できました。

参加者は 15 名で 50～60 代が中心。新聞や HP を見て知ったという方がほとんどでした。リーダーは 8 名(男性 6 名、女性 2 名)、スコープは 4 台用意されており、参加者への対応も行き届いていました。

■探鳥会の様子

暖かな天気も味方し、終始明るく和やかな探鳥会でした。リーダーの皆さんは積極的に話しかけをしており、皆で楽しもうという雰囲気を作られていました。また参加者の関心も高く、熱心に話を聞く姿が印象的でした。

集合場所は公園駐車場。分かりやすいよう、「日本野鳥の会 群馬」と書かれたのぼりや看板が出されていました。受付では参加者へ名札を配布していたので、後々名前を呼びながらコミュニケーションをとることができ、役立ちました。また、参加者にはフクロウの手作りマスコットのプレゼントもあり、皆さん喜んでいました。

リーダーの紹介、コースの説明、双眼鏡の使用方法的説明を終え、歩き始めること数分。葉の落ちた木にとまるアオバトを発見。この辺りで姿を見るのは珍しいそうで、リーダーの皆さんも興奮。ずっと動かずにいたので、全員がじっくりと観察することができました。

幸先のいいスタートで、皆さん意気揚々として足を進めます。池に着くと、水面にはカルガモやマガモ達の姿が。カモ類は比較的双眼鏡にも入れやすく、ゆっくり観察できるので、双眼鏡に不慣れな初心者でも安心です。

「同じカモに見えても、良く見ると、種類が違うのですよ。」

と説明があり、実物を見せつつ、手元の図鑑で種類を指し示して伝えていました。

雑談を交える中、参加者の 1 人が、「私、カワセミを見たい」と言ってすぐのことでした。青い鳥が目の前を素早く横切りました。池の周りで、カワセミが 2 羽飛び回っています。枝にとまったところですかさずリーダーがスコープに入れ、皆で見ることができまし

た。その後、林ではヤマガラやミヤマホオジロが現れ、

「可愛い！」

と参加者の間に笑顔がこぼれました。色々な野鳥を観察でき、初心者でなくても大満足の探鳥会でした。



▲林での観察の様子

■参加者の声

30 代男性: 友人が野鳥の撮影をしていることに影響されて、最近自分もカメラを買いました。初めてでしたが、今日は色々な鳥を撮ることができて良かったです。

50 代女性: 鳥の声を普段聞いていなかったの、新鮮でした。丁寧に教えて下さり、リーダーの皆さんもすごく楽しんでいて、こちらも楽しいひとときが過ごせました。

■まとめ

探鳥会終了後、参加者 15 名のうち 10 名がお試し入会をされました。1 人のリーダーの方が、「今日は、とにかく沢山話すようにした」と言っていました。参加者への積極的な話しかけや気配りが、良い結果をもたらしたのだと思います。また、リーダーの皆さん自身も楽しんでいるのが、参加者にも伝わっていたようです。参加者の皆さんも仲間に加わりたい、また参加したいという気持ちになったのではないのでしょうか。探鳥会での雰囲気づくりの大切さを改めて実感しました。

(普及室／生田南美子)

『宇都宮・中央公園ビギナー探鳥会』（栃木）

【日 時】2014 年 11 月 30 日（日）9 時 30 分～11 時 30 分

【天 候】晴れ

【場 所】栃木県立中央公園（栃木県宇都宮市）

【参加者】29 名 【リーダー】7 名 【お試し入会者】8 名（非会員参加者の 3 割）※1 名本入会

【広 報】

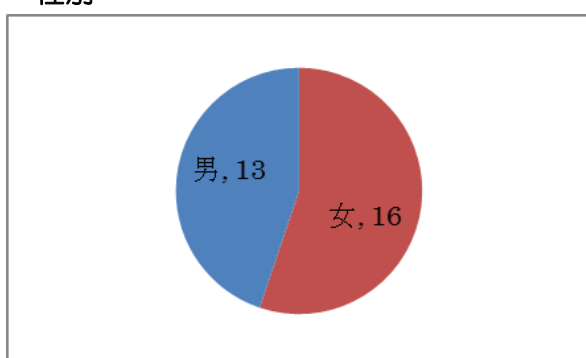
＜新聞・情報誌＞3 社（とちぎ朝日、下野新聞、リビングとちぎ）

＜ラジオ＞1 社（栃木放送）

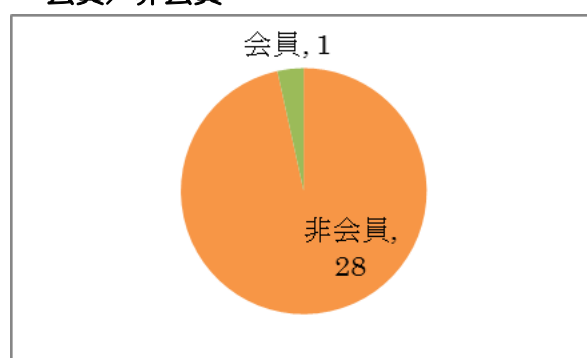
＜インターネット＞財団・支部 HP、財団・支部 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter

＜メール＞一斉メール送信（10/17、20 に、関東、山梨、静岡在住の 8,663 名に送信）

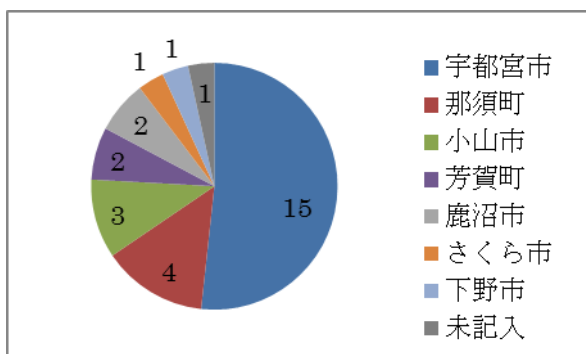
・性別



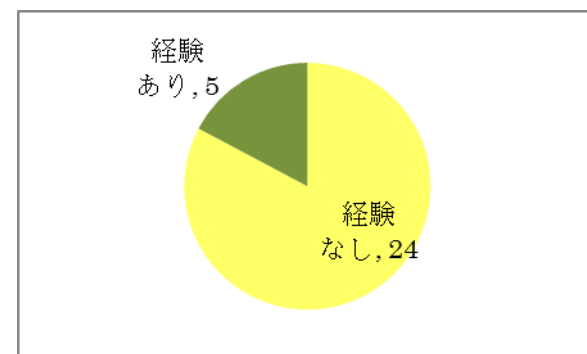
・会員／非会員



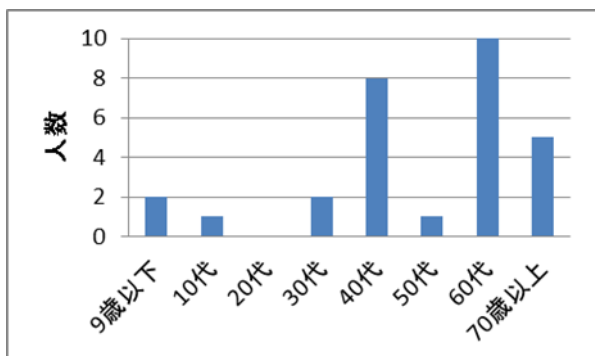
・お住まい



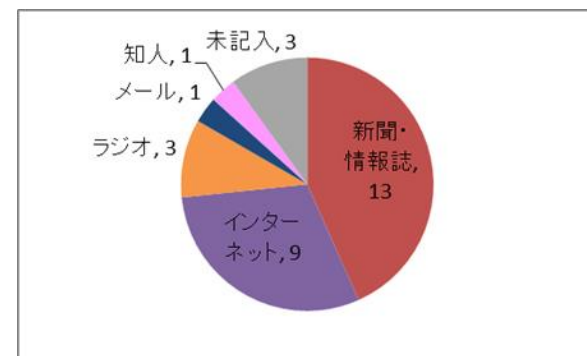
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

栃木県宇都宮市にある「栃木県立中央公園」は、栃木県が運営する公園で、宇都宮駅からバスで約 15 分の場所にあります。和洋折衷の廻遊式庭園風に構成された園内には、県立博物館や緑の相談所が併設され、県民に広く利用されています。

当日は、60 代以上の方を中心に、2 組の家族連れを含む 29 名の参加がありました。ほぼ全員が非会員で、初めてバードウォッチングをする方でした。望遠鏡を持ったリーダーが参加者の間に入り、公園内の池や林、芝生で観察をしました。

■探鳥会の様子

受付では双眼鏡の貸し出しがあり、観察を始める前に使い方の説明がありました。参加人数が多かったですが、前で 1 人のリーダーが説明を始めると、残りのリーダーがさっと参加者に寄り添って一緒に動作の確認をし、全員が使えるようにされていました。

観察を開始してすぐ、園内の中心にある「昭和大池」で、リーダーが石の上にいるカワセミを発見。雰囲気が一気に盛り上がりました。参加者は、

「自分 1 人では絶対に見つからなかった。」

「本当に綺麗。」

と感心しきりでした。リーダーは全員に望遠鏡を覗いてもらい、

「スズメよりも一回り大きいくらいの大きさです。池の中の魚をホバリングして見つけて捕まえます。」

などと説明し、長めに時間をとって存分に観察してもらっていました。

紅葉したモミジが美しい林内では、ツバキの花にやってきたヒヨドリ、コゲラやシジュウカラなどの混群が観察でき、芝生ではキジバトやハクセキレイを観察できました。

鳥合わせは、全員が良く見られたものにしばって 8 種を確認し、鳥の絵を使いながら簡単な説明をされていました。

お試し入会の案内では、会の主な活動や会員になることのメリット、会員種別と会費をまとめた用紙を使いながら説明されていました。

「栃木では年間約 140 回探鳥会をしています。県北で見られるオオルリも綺麗ですよ。鳥に詳しいリーダーと一緒に活動すると鳥を覚えられるのでお勧めです。」

「入会はもちろん希望される方だけですが、私たちは自然保護活動もしているので、会員になっていただくと、それが自然保護の下支えになり、大きな力になります。」などと紹介していました。



▲終了後、参加者と歓談する女性リーダー

■参加者の声

40 代男性：全くの初心者でしたが、親切にレクチャーいただき、バードウォッチングの楽しさに魅了されました。カワセミを近くで見ることができてとても感激しました。

40 代女性：小学生の息子が鳥に興味をもっており、インターネットで見つけて参加しました。これまで野鳥の会が一般向けの観察会をしているとは知りませんでした。以前買った双眼鏡を上手く使えずにいたので、今日は使い方を教えてもらえてよかったです。

■まとめ

栃木では、年間 6 回程ビギナー向けの探鳥会をされているそうです。リーダーの皆さんも初心者の対応に慣れているようで、参加者が道に広がってしまわないように注意を払ったり、滑りやすい場所を通るときに声かけをしたりと、各々のリーダーが率先して気を配っていました。また、お試し入会することのメリットも分かりやすくお話されていました。全体として、リーダーの皆さんの仲の良さや優しい人柄が感じられ、雰囲気の温かい探鳥会でした。

(普及室／堀本理華)

『はじめてみませんか、バードウォッチング』in 昭和記念公園（奥多摩支部）

【日 時】2014 年 12 月 6 日（土）9 時 30 分～12 時

【天 候】晴れ

【場 所】昭和記念公園（東京都立川市）

【参加者】88 名 【リーダー】14 名 【お試し入会者】30 名（非会員参加者の 4 割）

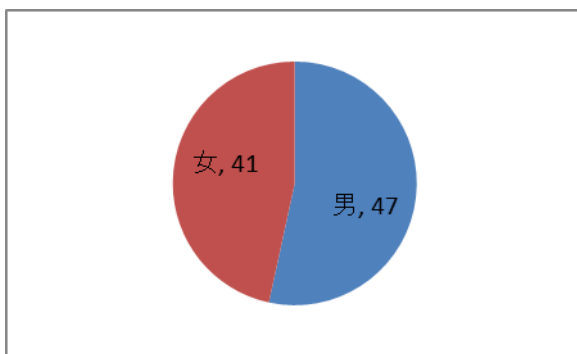
【広 報】

＜新聞＞3 社（11/20 読売新聞、11/28 西多摩新聞、12/4 朝日新聞）

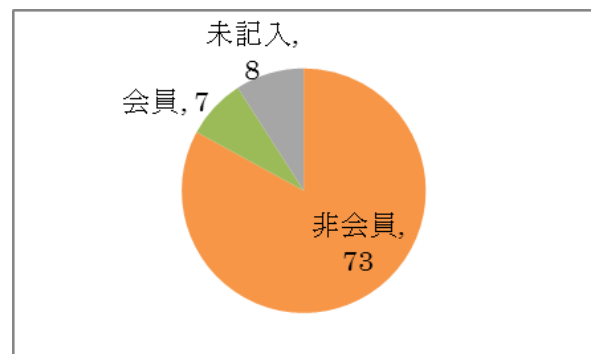
＜インターネット＞財団・支部 HP、財団・支部 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter

＜メール＞一斉メール送信（11/13、14 に、関東、山梨、静岡在住の 8,692 名に送信）

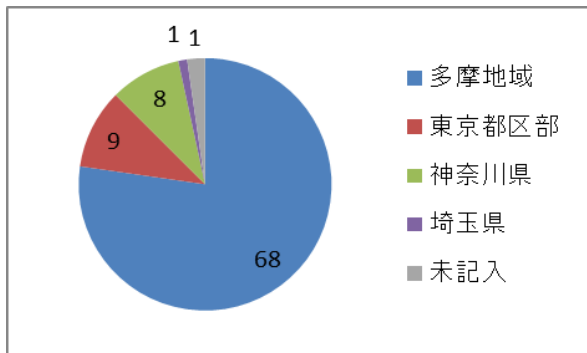
・性別



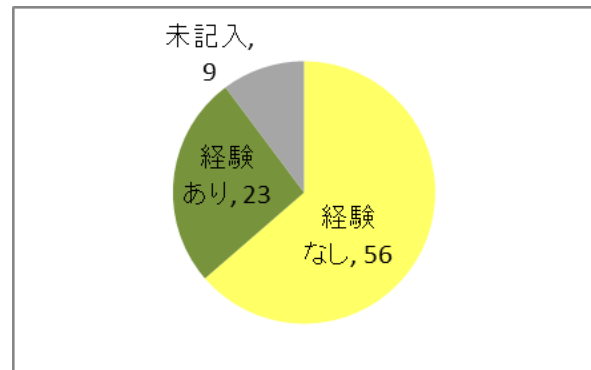
・会員／非会員



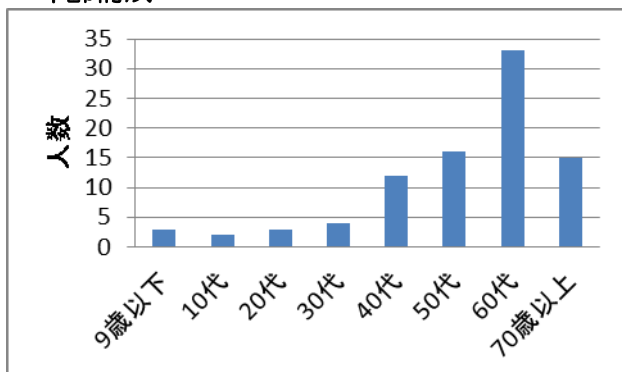
・お住まい



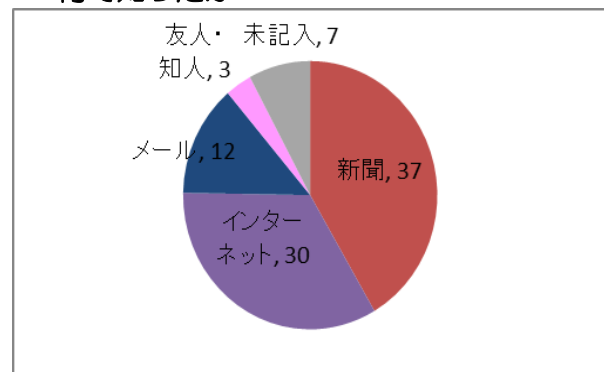
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

昭和記念公園は、立川基地跡地の返還後に建設された国営公園で、年間 370 万人もの入場者があります。奥多摩支部では以前からここでビギナー向けの探鳥会を開催しています。

当日は、非会員 73 名を含む 88 名もの参加があり、予想を大きく超えた人数に奥多摩支部のリーダーのみなさんもうれしい悲鳴を上げていました。参加者の人数は多かったものの、全体を 4 班に分け、それぞれ 4 人程度のリーダーがつき、リーダー 1 人当たりの対応人数を 5~6 人にしたことで、きめ細やかな対応をおこなっていました。

また、大きな池の周囲を回るコースに設定したことで、水鳥を中心に双眼鏡を使わなくても十分に観察できるよう配慮されていました。

観察された主な野鳥は、カワセミ、アオサギ、カワウ、キンクロハジロ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモなどの水鳥を中心にツグミ、シジュウカラ、ジョウビタキ、モズ、カワラヒワなど、草地で見られる野鳥を堪能することができました。



▲鳥合わせの様子

■参加者の様子

参加者は、88 名のうち 73 名が非会員で、全体の 8 割以上となっていました。また、バードウォッチングの経験については、56 名が未経験、23 名が経験ありでした。

参加者の年齢構成は、50~60 代を中心に数組の親子連れが混じるといった構成で、8 割近くが地元の方が多摩地域の方が占めていました。広報媒体は、新聞が 4 割、当会のホーム

ページやフェイスブックをご覧になった方が 3 割で、新聞による告知とインターネットによる告知が拮抗していました。またその他に、普及室からお送りしたメールをご覧になった方が 1 割いらっしゃいました。「ミニミニ野鳥図鑑」などの小冊子をお送りした方が、実際にバードウォッチングを体験できる場を求めて参加されたものと思われます。

今回、参加者が多かった理由ははっきりしたことはわかりませんが、昭和記念公園という集客力のある公園だったことがまず考えられます。その他に、支部のリーダーからは、「開催時期がよかったのではないか」という声もありました。「11 月は運動会などイベントが多くみな忙しいが、イベントが落ち着き、忘年会シーズンまでの端境期の 12 月初旬は、参加しやすかったのではないか」とのことでした。それにしても参加者には、保険料 100 円その他、公園の入園料として 410 円、合計 510 円の支出を伴っていたにもかかわらず、これだけ多くの方が参加したということは、今後に向けて期待が持てる結果になったのではないかと思います。

■参加者の声

70 代男性：読売新聞を見ました。山歩きでもっと鳥のことがわかったらいいなと思っており、初心者向けだったので参加しました。
大学生の女性：鳥に興味があり、HP で探したところ、今回の初心者向けの探鳥会が見つかったので参加しました。

■まとめ

今回の参加者のうち、お試し入会に申し込んでくれたのは 30 名でした。非会員 73 名の 4 割に当たります。ただし奥多摩支部の場合は、無料でお試し入会を受け付けていたので、有料の場合と単純に比較することはできないかもしれません。

ともあれ、非会員を対象とした探鳥会に大きな手ごたえを感じることができたことは確かです。支部では今後も継続して実施し、できれば回数を増やしてみようという声も出ていました。

(普及室／箱田敦只)

『千葉公園ビギナーズ探鳥会』（千葉県）

【日 時】 2014 年 12 月 6 日（土） 10 時 00 分～12 時 00 分

【天 候】 晴れ

【場 所】 千葉公園（千葉県千葉市）

【参加者】 14 名 【リーダー】 9 名 【お試し入会者】 4 名（非会員参加者の 3 割）

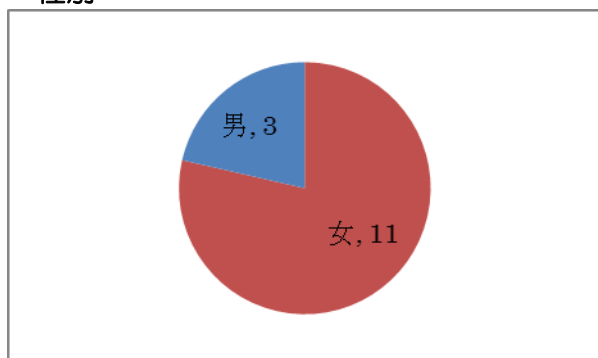
【広 報】

＜新聞・情報誌＞3 社（11/28 毎日新聞、12/1 定年時代、12/4 東京新聞）

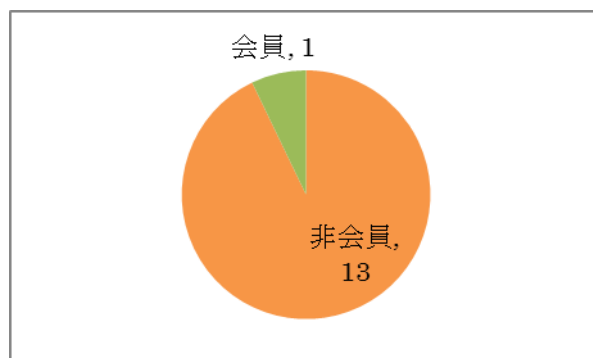
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter

＜メール＞一斉メール送信（11/13、14 に、関東、山梨、静岡在住の 8,692 名に送信）

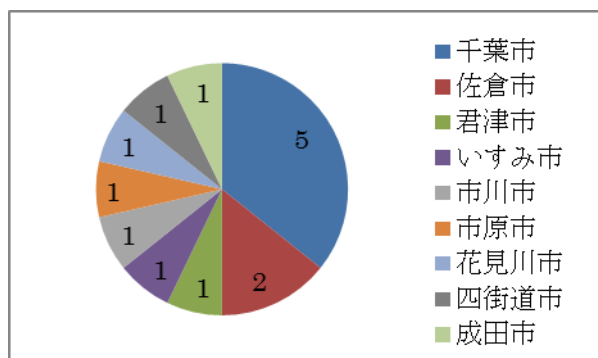
・性別



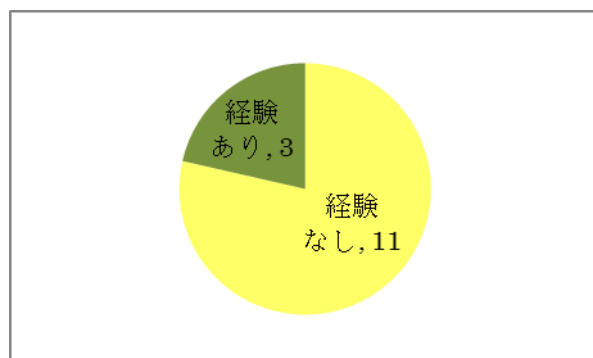
・会員／非会員



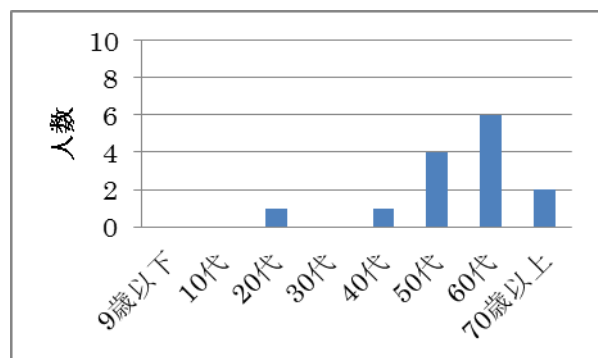
・お住まい



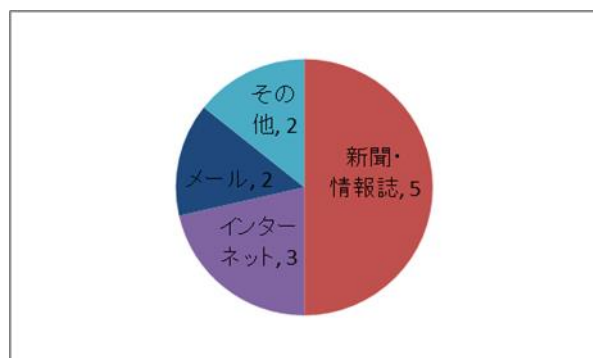
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

千葉公園は、千葉県千葉市の中心街にある約 16 ha の総合公園です。園内には野球場やプール、体育館などが整備され、また春は桜の名所、夏は大賀ハスの鑑賞地としても知られる市民の身近な公園です。

当日は、50 代以上の非会員の女性を中心に、14 名の参加がありました。探鳥会は、メインリーダーが先導し、残りのリーダーが間でサポートするかたちで進みました。

集合場所の千葉駅から 10 分程歩いて園内に入り、「ポート池」の水鳥や「荒木山」の山野の鳥を観察しました。

■探鳥会の様子

大きな道路から公園の入り口を入ると、雰囲気さがらりと変わり、周囲は緑に囲まれ、目の前には大きな池が広がっていました。

トイレの案内のあと、池の前の広場で、貸し出した双眼鏡の使い方を確認しました。使えるようになったところで、まずは水鳥の観察をしました。ユリカモメやキンクロハジロ、ホシハジロなどが見られ、近くにはコサギもやってきました。リーダーは、

「目が金、体が黒、羽が白なのでキンクロハジロです。」

「足が黄色なのが特徴のコサギですが、黄色が薄く、体も灰色がかったので幼鳥だと考えられます。」

と、望遠鏡を覗いてもらいながら、紹介していました。

池沿いに歩いて行くと、池の上をカワセミが横切りました。とまったところを皆でじっくり観察でき、次々に望遠鏡を覗いて感嘆の声を上げる参加者に、カワセミの人気の高さを感じました。その後池の反対側でもリーダーはカワセミを見つけ、参加者に紹介していました。

林には、シジュウカラやスズメ、ヒヨドリなどがおり、リーダーは足をとめて丁寧に説明していました。また、キジバトとカワラバトが近くにいた場面では、2 種の違いをしっかりと確認しました。リーダーは、

「今日は、何か 1 つ 2 つ覚えて帰ってもらえれば良いですよ。」

と安心できる言葉をかけていました。

鳥合わせはリーダーから紹介するのではな

く、参加者一人一人に今日見た鳥で印象深かった鳥をあげてもらったりやり方で 14 種を確認しました。リーダーは参加者の答えをしっかりと受け止めて、

「コゲウいたね。日本で一番小さいキツツキで、戸が軋むような声で鳴きます。」

「セグロカモメは池で 1 羽だけ見られたね。」と、今日の説明のおさらいや共感の言葉をかけながら進めていたのが印象的でした。



▲荒木山での観察の様子

■参加者の声

大学生の女性：自然が好きで、昨年、谷津干潟自然観察センターでインターンをしました。そこに鳥が多くいたので、興味を持つようになりました。HP を見て参加しました。

50 代くらいの女性：実物を目の前に、マンツーマン的に教わることで、勉強になりました。セキレイやカラス、ハトに種類があることや特徴が分かりました。

■まとめ

大きな声で丁寧に説明するリーダーから、探鳥会への熱意が伝わってきました。また、開始前の「名札を付けたリーダーに何でも聞いてください」という声かけや、説明後の「質問はありますか」という声かけには、安心感がありました。開催場所も良かったようで、当日は次々と鳥が見られ、終了後のアンケートからも満足度の高さがうかがえました。

(普及室／堀本理華)

◆探鳥会保険集計結果（2014 年 11 月分）

11 月は 65 支部からご報告をいただき、計 254 回の探鳥会が開催され、のべ 5,528 人が参加されました。

表 2.11 月の探鳥会保険集計結果（2014 年 12 月 15 日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	-	-	-	-	-
オホーツク支部	1	19	5	1	25
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	2	18	28	5	51
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	1	25	0	4	29
滝川支部	1	14	1	1	16
道北支部	-	-	-	-	-
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	3	45	14	11	70
小樽支部	2	2	12	2	16
苫小牧支部	-	-	-	-	-
室蘭支部	2	23	4	6	33
函館支部	-	-	-	-	-
道南釧路	1	8	1	2	11
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	15	4	2	21
秋田県支部	3	35	6	3	44
山形県支部	3	24	5	4	33
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	2	33	13	9	55
北上支部	2	10	19	3	32
宮城県支部	4	54	14	8	76
ふくしま	2	40	0	3	43
郡山支部	2	25	0	6	31
二本松	1	4	0	1	5
白河支部	1	1	0	5	6
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	22	1	1	24
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	12	108	62	19	189
栃木	-	-	-	-	-
群馬	5	60	28	14	102
吾妻	1	14	0	1	15
埼玉	14	387	69	107	563
千葉県	10	153	58	43	254
東京	14	457	16	73	546
奥多摩支部	11	184	20	42	246
神奈川支部	11	191	46	44	281
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	2	27	10	2	39
石川	3	47	4	7	58
福井県	2	31	0	2	33
長野支部	4	36	6	8	50
軽井沢支部	1	6	2	1	9
諏訪	0	0	0	0	0
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	1	10	2	2	14
甲府支部	1	33	6	2	41
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	3	49	0	6	55
南富士支部	1	47	1	2	50
南伊豆	1	12	0	2	14
静岡支部	3	30	30	5	65
遠江	2	58	9	6	73
愛知県支部	14	138	95	36	269
岐阜	-	-	-	-	-
三重	4	35	6	7	48
奈良支部	4	124	2	8	134
和歌山県支部	1	5	11	4	20
滋賀	6	42	21	12	75
京都支部	6	77	38	11	126
大阪支部	20	342	87	0	429
ひょうご	6	96	61	15	172
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	0	0	0	0	0
島根県支部	1	8	1	1	10
岡山県支部	4	82	45	11	138
広島県支部	4	20	25	4	49
山口県支部	2	7	9	2	18
香川県支部	2	42	3	2	47
徳島県支部	6	51	9	6	66
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	7	82	39	10	131
北九州	3	39	6	3	48
福岡支部	7	122	19	14	155
筑豊	3	22	2	3	27
筑後支部	-	-	-	-	-
佐賀県支部	4	34	9	5	48
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	7	79	21	8	108
大分県支部	2	17	4	2	23
宮崎県支部	1	15	3	1	19
鹿児島	2	34	9	7	50
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	0	-	-
全国	254	3,870	1,021	637	5,528

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

◇スズメ目で最大は？

増補改訂新版の発行をお待たせしている皆様には申し訳ありませんが、遅れていた修正を加えた図版や分布図の印刷があがって来ました。虫眼鏡も使って鋭意、チェックの最中ですが、先に印刷があがった解説文では、日本鳥類目録改訂第7版に掲載されたすべての種を扱うことができました。

例えばミツユビカワセミです。2006年に沖縄県の養護学校で保護された個体について日本鳥学会誌に論文が掲載され、新たに目録掲載種となりました。カワセミの類似種として解説に含めようとしたのですが、「ミツユビカワセミは赤い嘴、オレンジ色の頭など、カワセミに似ているとは言えない」という意見があり、カワセミ科の解説で触れることで合意を得ました。

図鑑改訂作業はそれだけでは終わりません。高野さんが書かれたカワセミの解説文には「日本のカワセミ科で最少」と記されていましたが、ミツユビカワセミはさらに小さいので、カワセミの解説を「ほぼスズメ大で・・・」と修正させていただきました。

最大、最少の記載は2007年の増補改訂時にも修正した箇所があります。カンムリカイツブリがカイツブリ科で最大という解説がされていましたが、北米には全長60cmを越す種がいます。そこで、「日本のカイツブリ科で最大」と直しました。その当時は見送ったのですが、今回の新版ではワタリガラスに手を入れさせていただきます。高野さんはスズメ目で最大と書いていますが、全長が最大と言えるのはオーストラリアのコトリ(スズメ目コトリ科)の80~100cmでしょう。そこで高野さんにごめんなさいとつぶやきながら、「最大」を「最大級」に直しました。

◇ハシボソカラスはホッピングするか？

野鳥誌で目録改訂の解説をした際(2013年2・3月号)にも触れましたが、改訂7版ではハシボソガラスの分布の記載がより詳しくなっています。増補改訂の際にも、私が小笠原諸島にはいないことを書き足していますが、増補改訂新版では目録7版に沿って「硫黄列島を除

く全国のいろいろな場所に留鳥としてすむが、小笠原群島や大東諸島では絶滅」としました。

このような修正は施しますが、高野さんによる解説文は親切かつ的確で、今読み返してもうなってしまう箇所が多々あります。探鳥会でベテランリーダーのお話を聞いていると、高野解説が元になっていると思われることも少なくありません。カラスに限っても、ハシボソとハシボソの鳴き方、飛び方、習性の違いなど手短に、上手に表現されています。

それでも増補改訂時には、ミヤマガラスの解説文の中でカラス科に共通した特徴と言える鼻孔を覆う羽毛について(ミヤマガラスは例外で、成鳥では鼻孔が見える)書き足したり、元々「未繁殖の若鳥が5月にも残っている」という記載があった部分に、「ハシボソガラス・ハシボソガラスなどと同様に2年目では繁殖年齢に至らない可能性がある」なども書き足し、充実に努めてきました。さらに新版ではハシボソガラスの解説で、ハシボソガラスとの歩き方の違いを書き足すことにしました(ハシボソはウォーキングが中心)。

カラス科ではありませんが、カワガラスの解説にも「まぶたが白く眼を閉じると目立つ」と追記しました。これは探鳥会などでしばしば「瞬膜が白い」という解説を耳にするためです。ハシボソガラスやハシボソガラスでは瞬膜が白っぽく見えますが、カワガラスの瞬膜は多くの鳥のように半透明のはずです。

◇コケは植物、地衣類は？

新版で探鳥会リーダーを意識して直した例では、コケと地衣類があります。地衣類は菌類と藻類の共生生物であり、コケ植物とは似て異なるものです。が、ウメノキゴケのようによくコケという名が使われることもあって、探鳥会でもしばしば混同されています。

探鳥会で高野さんが人気だったのは、優しい人柄に加えて、あらゆる生物に詳しくあったからではないでしょうか。私自身はカワラヒワの亜種の幼鳥の違いについて聞いたら、即座に「僕にはわかりません」と言われて唖然とさせられたのが最初の出会いでした。でも、探鳥会では

専門のクモのみならず、虫でも植物でも聞くたびに教えてくれました。「知らない」「わからない」にはとても正直な方だったからこそ、その知識の幅広さは想像できないほどでした。

『フィールドガイド日本の野鳥』の高野解説ではコサメビタキ、サンショウクイ、シジュウカラなどが巣材にコケを使うように書かれています。探鳥会リーダーが解説の参考にする際にコケと地衣類を混同しないように、またナチュラリスト高野の著作物を充実させるためにはコケと地衣類を書き分けたいと考えた次第ですが・・・、コサメビタキ、サンショウクイ、エナガの巣はコケを使った上で地衣類を貼り付けます。そこまで書き足すスペースはないし、古巣の見分け方については、増補改訂版で身近な野鳥に限って別途まとめました。そこで「コ

ケと地衣類」などの表記にしました。

高野解説ではエナガの巣は球形で、コサメビタキは横枝に営巣すると書かれていたので、新版ではサンショウクイでは巣は枝のまたの部分に作られることを書き足しました。ちなみに大阪支部でも活躍されている小海途銀次郎さんの著作（増補改訂時にも参考文献とさせていただいた世界文化社発行の『巣と卵図鑑』）では、形や巣材が似ているコサメビタキとサンショウクイについて、営巣場所、大きさ、取り付け方の違いまで触れられていますが、高野さんもサンショウクイではクモの糸で固定すると書いています。

（普及室／安西英明）



▲目録7版における新たな掲載種の中で、今後も各地で観察されそうな種は谷口高司さんに図版をお願いしました。前回ムシクイ類2種を紹介しましたが、今回はセアカモズ（左）とモウコアカモズ（右）の図版（共に左が雄成鳥、右は第1回冬羽）を紹介しておきます。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信1月号の電子メール版の購読者数は、先月から3名増えて836名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表3. 探鳥会スタッフ通信1月号電子メール版の購読者数(2015年1月21日現在)

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	1	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南松山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	2	京都支部	132
北上支部	2	大阪支部	21
宮城県支部	39	ひょうご	8
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	23	筑豊	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	35	佐賀県支部	3
千葉県	16	長崎県支部	1
東京	48	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	14	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	5	西表支部	2
		合計	836

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアド

レス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

本年もよろしくお願いいたします。

来月は、探鳥会リーダーズフォーラムの開催があります。十勝支部や会津支部、佐賀県支部など遠方からお越しいただける方もおり、お会いできるのが楽しみです。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第22号

◆発行

(公財) 日本野鳥の会 2015年1月22日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
